

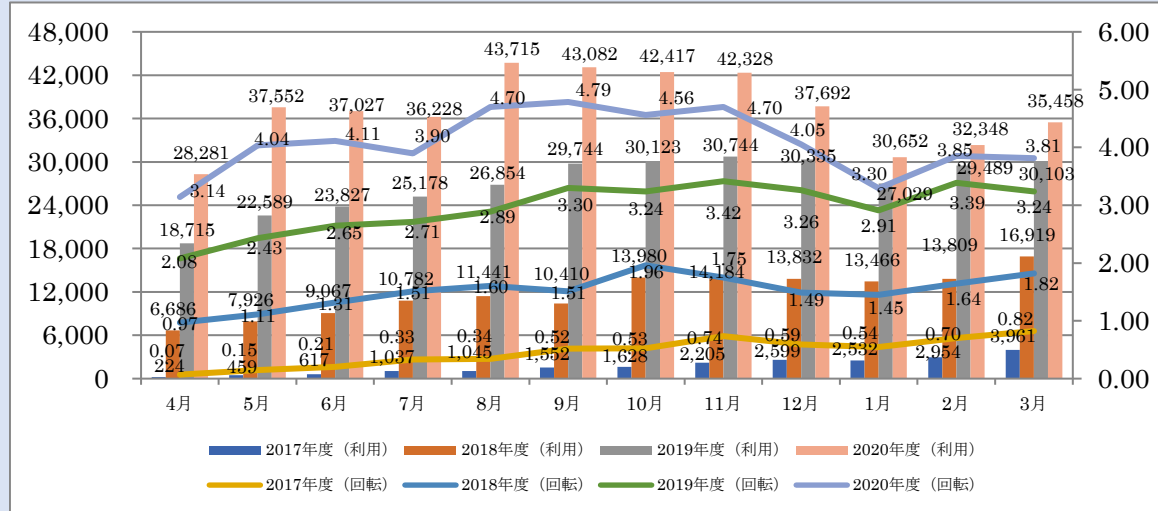
1. 事業実施の背景

- ・コミュニティサイクル事業は、平成23年3月に策定した「大田区自転車等総合利用基本計画」に位置付けられ、27年度に導入基礎調査を実施した。その結果をもとに導入施策を検討し、29年3月から3年間の試行事業を実施した。
- ・試行事業最終年度となる令和元年度に、利用状況や期待される事業効果等を検証した結果、今後の利用増加が見込まれた。その結果をもとに、本格事業の実施へ移行するための条件値を設定した。
- ・令和2年度からは、条件値への推移を管理するために、新たに検証期間を設けて検証事業を実施している。そのうえで、本格事業の実施への移行の可否を検討している。
- ・平成30年度からは自転車シェアリング「広域相互利用」に参加した。これにより、現在は大田含め11の特別区（以下、広域連携締結区）との相互乗入れが可能となった。

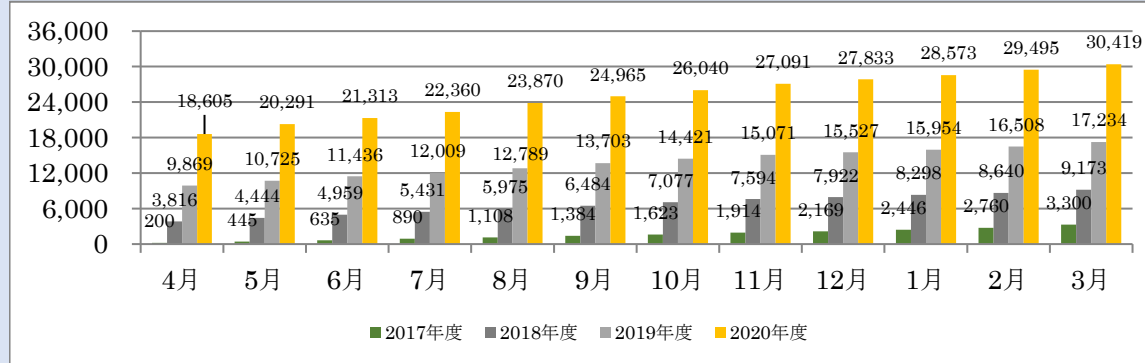
2. 利用実績・推移 (H29年度⇒R2年度)

累計利用回数（令和2年度3月末）：934,841回 3月における昨年同月比：約1.3倍
 累計登録者数（令和2年度3月末）：30,419人 3月における昨年同月比：約1.2倍

■年度・月毎の利用回数と回転率（利用回数/日・台）



■登録者の累計推移



■ポート利用ランキング

ポート利用 ランキング (3月)	貸出		返却	
	順位	名称	順位	名称
1	1	大田区役所本庁舎前	1	大田区役所本庁舎前
2	2	京急蒲田駅東口	2	京急蒲田駅東口
3	3	大森地域庁舎	3	大森地域庁舎
4	4	蒲田駅西口自転車駐車場	4	蒲田駅西口自転車駐車場
5	5	グリーンベルト	5	ファミリーマート大田上池台三丁目店

3. サイクルポートの設置実績



4. 課題と対応策

【課題】

- 利用者ニーズについて
 - ・鉄道駅付近のポート設置が進んでいない。
 - ・調布エリアをはじめとした台地部のポート設置が進んでいない。
- 適正な利用環境の提供
 - ・1か所のポートに過剰な台数が駐輪されたままになっていることがある。
 - ・一方で、充足率（ラックに対する自転車台数）が広域連携締結区に比べて著しく低く、ポートに利用可能な自転車が無いことも散見される。

【対応策】

- ポートの拡充
 - ・令和2年度に、蒲田駅西口、昭和島駅、西馬込駅付近にポートを設置した。
 - ・今年度、台地部に6つのポートを設置した（令和3年5月末現在）。
- 自転車の最適配置
 - ・運営事業者と情報を共有し、利用状況を分析しながら、再配置の体制や実施時間を適宜判断、見直しを行った。今後も引続き、ポートの利用状況を注視しながら強化していく。
 - ・運営事業者と適正な自転車台数を確認し、台数の整備に向けて調整する。

5. 今後の方針

1. 本格事業へ移行の可否を判断する条件値

数値目標	令和元年度末実績	令和2年度末実績	本格事業への条件値
① 累計利用回数（万回）	48	90	120
② ポート設置数（箇所）	76 (※注2)	89	90
③ 事業収支（±）	赤字	黒字	単年度収支2年連続黒字

※注1：試行、検証実施の同事業者で運営した場合

※注2：令和2年11月に廃止したポート含む

2. 本格事業への移行の可否の検討

- ・本格事業への条件値に向けて、利用回数・ポート設置数ともに右肩上がり増加している。
- ・今後も条件値への推移を管理しながら、本格事業への移行の可否を検討していく。